

特集：生ごみを減量しよう!



なぜ生ごみの減量が必要なの?

老朽化した焼却炉の負担に!

家庭の燃やせるごみの約40%は生ごみとされています。水分を含んでいるため、燃焼の負担となり、より多くの化石燃料を燃やすことに繋がり、また老朽化した焼却炉にも大きな負担となっています。

私たちの税金の負担増にも!

焼却しきれなかったごみは廃棄を外部委託したり、余分に燃料を使う等、生ごみの増加は結果的に私たちの税負担の増加に繋がります。12月の議会では、生ごみ減量の取り組みを一層促進させるため、3つの政策に着目しました。

立川の家庭ごみの年間排出状況

ごみ種別	市全体 (トン)	1世帯 (kg)
生ごみ	8,900	95
燃やせるごみ (生ごみ以外)	13,353	143
その他のごみ (燃やせないごみ、プラスチック、ビン、缶、古紙等)	16,436	176

※ 生ごみ割合を40%と仮定。小数点は四捨五入
 ※ 清掃事業年報(2021年度発行)より作成
 ※ 焼却費用も同上(事業原価計算書)より作成

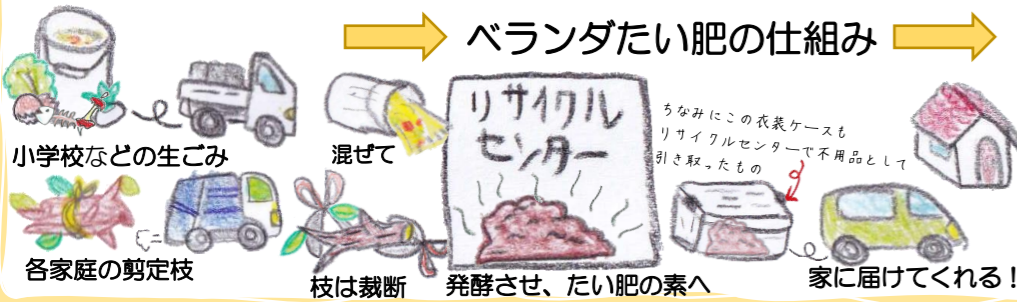
焼却費用:約8.7億円
(1世帯当たり9,344円)



① ベランダたい肥の普及を!

市では剪定枝と小学校給食の残飯や生ごみなどを混ぜて、たい肥の素(もと)を作っています。たい肥の素は生ごみを入れると分解して、たい肥にしてくれます。

リサイクルセンターやイベント等で配布されている他、連絡すれば(表紙写真のような)衣装ケース等の容器と一緒に、無償で届けてもらえます(ベランダたい肥)。議会でもこの取り組みの更なる普及促進を訴えました。是非、皆様もはじめてみてください!



ベランダたい肥を始めた方へ

ごみ対策課にお問合せください!
 【お問合せ先】ごみ対策課家庭ごみ減量係
 電話番号:042-531-5518
 ファックス:042-531-5800
 住所・氏名・世帯の人数・電話番号・新規か継続の申し込みか、不在時に玄関先に配達可能かどうかをご記入ください。



② 大山団地の生ごみたい肥化を次のフェーズへ!

現在、大山団地では生ごみを毎週回収して、たい肥にしています。この事業を、大山団地以外の地域住民も参加できるような新たな枠組みを求めました。市も今後は他自治体の取り組みを参考にしながら、新たな政策の可能性を検討していくとのことで、進展を期待しています。

③ 生ごみ処理機購入補助の適正化を!



立川市では生ごみ処理機の購入に対する補助を出していますが、熱で乾燥させる電動の生ごみ処理機は電気を多く消費するため、電気代がかさむ上に気候変動対策の観点からも好ましいとは言えません。電動処理機に対する補助の見直しや、非電動のコンポストなどへの支援を増額させるなど、メリハリのある政策を要望しました。市役所も今後は総合的な観点から検討していくとのことです。

今回の内容

【裏面】コロナ対応を振り返る
 【特集】生ごみを減量しよう!

最年少
立川市議会議員

山本ようすけ
 緑たちかわニュース 第11号



9月1日~12月31日までに16kgの生ごみ減量に成功!

議員会派室のベランダたい肥

【主な投入物】コーヒーマシン、お茶類、バナナの皮など

11 住み続けられるまちづくりを
 12 つくる責任 つかう責任
 13 気候変動に具体的な対策を

発行日:2022年1月5日
 発行:立川市議会議員 山本洋輔
 連絡先:立川市高松町2丁目19-1
 TEL:080-5650-7833
 Email: t.yamayou@gmail.com

おうち時間が増える中で

写真は議員控室で実施している生ごみたい肥化の様子です。これまで議会でごみ問題を何度も取り上げてきました。菓ごもりの影響か、家庭のごみが増えた一方、プラごみの分別率が改善したり、生ごみ処理機購入補助の申請が大幅に増えるなど、意識も非常に高まっていることが明らかになっています。12月の議会では「生ごみの減量」をテーマに取り上げました。皆様が直接受けられるサービスもありますので、是非お読みいただければと思います。

山本洋輔 プロフィール

- 1990年生まれ(31歳)。稲城市育ちで高松町在住
- 立川高校、一橋大学社会学部 卒業 ● 大学浪人時代から困窮者支援ボランティアに携わる
- 外資系コンサルティング会社に4年間勤めた後、2018年立川市議選に立候補、当選(最年少)
- 現立川市議会議員(最年少)、環境建設委員会 副委員長、NPO 法人さんきゅうハウス理事
- 趣味:歴史、読書、映画鑑賞、博物館や美術館に行く、登山、街歩き、ゲーム、子どもと遊ぶこと

